

6月の参観日。県の緊急事

態宣言が期限を迎え、沈黙化してきたと思われる時期ではありましたが、県内でも様々な催しが大事を取って延期や中止となっている状況を踏まえ、リスクを避けるべきと判断したところです。

お忙しいお仕事のご都合をつけて、参観を楽しみにしていたいただいた皆様に大変申し訳なく思っております。

今回の参観日を含め、本年度の教育計画はコロナ禍前の計画に戻しています。見通しが甘い：そのとおりなのですが、はじめから「中止」「縮小」「時間短縮」ではなく、そのときの状況を踏まえ、限られた中でも最大限に目的に迫り、保護者の皆様にも理解していただけるような教育活動になるよう今後とも知恵を絞りたいと考えております。御理解のほどよろしくお願いいたします。

取り戻そう「大切な心」

校長室のデスクマットの片隅に、ずっと挟んだままのメモ用紙を見つけました。

山川異域
風月同天

「何かのネタに」と考えメモしたものでしょう。意味は何となく記憶にありましたが、どういう状況でメモしたのか全く忘れていました。

「サンセン、イキをコトにすれども、フウゲツ、テンをおなじゅうす」(目の前の風景や場所とは違っても、人は皆同じ青空の下に暮らしているんだ)という鑑真の時代の詩句だと「ググって」再確認しました。私がこの言葉に出会ったのは昨年の二月のニュース。得体的に、日本から届いた支援物資の段ボール箱に記された励ましのメッセージでした。

では、今、そのような余裕があるでしょうか？

当時、この得体的に知れない肺炎は全くの人ごとでした。まさかその後、世界中の人々を苦しめ、多くの命を奪い、世界経済に大きな打撃を与え、誰も想像すらできなかったでしょう。

その頃、上記のニュースは「日本人の美しい心」として取り上げられ、中国メディアも賞賛しました。既に、一月十六日には神奈川県で第一号の感染者が発見されていたわけですが、そこは海外からの玄関口、まだまだ特別なことだと思われていた時期です。

どちらかというと、中国は日本人がすることに否定的なことが多くと勝手に感じていた私は、「ほらあ、これが日本人よ。美しい心でしょ。」と、(関係ないのに)得意になり、いつか子どもたちにも伝えたいとメモしたものでした。

フッ化物洗口について

5月17日(月)に説明会を行いました。本校では6月30日(水)からの実施に向けて、あらためて職員の演習を行い、子どもたちにも練習させるなど準備を進めてまいります。何かご不明な点がありましたら遠慮なくご連絡ください。

学校スナップ

オリンピック集会の後にいただいた福留先生からのメッセージや
当日、手渡したたすき、リレーに使ったトーチなど
6月の参観日にご覧いただこうと児童玄関などに展示したところでしたが
今回、参観日が中止となり残念です。

しばらく展示しておりますので、ぜひ学校まで来られましたら、ご覧ください。

